

花江都
歌舞妓

年代記

二編

壹

花江都

津田文庫

文庫 1

1767

5

50

55

60

65

70

二層丸

立川



より

元禄十年
寅九月九日
源平雷傳記



花江都
歌舞伎

年代記卷之三

つだ文庫

談洲樓焉馬著

元文元年丙辰ヨリ
至延享四年丁卯十二年之間

享保廿二月七日辰
元文元年 頼貞世中村彦 國富教生石 三浦
と助小廣治海上まで八級王子小松を打つれ浦崎かなひり飛乃
登りてあつせり出。浦崎のさるま平きまこ八級王子三浦を門院
とつたえとさる上。頼と助とて萩野侍三郎市川流の志とて次ふ
狐の形能大に。通年何より大侍三郎。で死ねとの王に。同りり龜谷
十治郎。車のみと。盛の夜目えへり。乃中平三次のつと松と述る。三浦が
女房松風。慕と慕して小報を打るから方とぬ。忠りのふ切りけ。夜
大ことらちかから立大拜判市村彦 仔皇孫氏達本橋 本村又彦
宗十郎。お系源太宗三郎。お系三條勤孝郎。辰ひお小侍川代
系経又津打門三。系不お大志竹。忠之。河系源彦 順風志平純

源平雷傳記

年代記

卷之三

五月 吉野靜基 般若惡信



元禄十二年 信田和合王



同年の悪女長
五月十日 鬼箱路 一心五更玉



元禄十三年
辰百首 和國山つん



浦赤彦志の歌竹をもちて。暫のせりしる。所のふ国四所から。其
日月のたをとり返す。彼所の三所推し入へ渡す。二役畑古所を。東に
たり。二園に。長崎治所ふ松本寄所。又つる合のふ。二所判。参首は
七三丹の。勾内侍。袖破。景太。五人。不能。村。上。夫。甲。所。今。園。十。所。
内侍の。ちり。中の。白蛇を。た。所。叙。と。不。叙。は。其。修。大。所。也。

傳曰。二代目大谷廣治の。享保廿五年。詳判記。

立役と部

上 大谷文彦 市村彦トアリ

是初舞臺也。人形 辰松武右子。あて。下。免。辰松文七。夫
か。き。役。と。成。て。大。谷。文。彦。元。文。辰。年。市。村。竹。と。也。赤。子。と。成。て。
坂。東。又。と。郎。と。い。ふ。元。祖。中。村。助。之。所。の。享。保。廿。五。年。と。詳。判。記。に。
立。役。と。部

上 坂東助之郎 河東橋左トアリ

乃外方仙石彦助子。仙石彦孝郎。元文元年。中村助之所ト
あり。元文三年。二替り。若立役と部。入。上。上。仙石助之郎
河東橋左とあり。元文二年。中村七三彦子と成。中村と二一年

名の。又。仙石とい。故。役。と。部。位。下。と。上。上。の。役。者。九。お。死。拘。と。改。免。
仙。と。好。と。う。中。村。助。之。所。と。い。ふ。三。年。坂。東。又。と。郎。ト。上。上。位。の。位。多。り。
十年。ま。さ。さ。ら。江。戸。役。者。の。ま。れ。の。魚。十。町。と。い。ふ。

元禄二年 春中村彦 曜舞鶴と

此はな慶派。同。二。役。者。を。本。名。天。元。天。の。四。所。と。鬼。主。ふ。吉。と。赤。と。市。村
吉。八。赤。川。集。と。也。と。せん。お。つ。ひ。江。戸。又。彦。彦。同。二。年。同。少。の。百。推。故。は
抱。取。と。の。十。席。毎。屋。上。の。席。け。の。の。せ。う。と。小。鼠。小。彦。子。誠。の。少。助。ふ
義。彦。大。い。の。席。ふ。と。葉。と。也。と。且。も。大。て。た。た。め。に。河。東。橋。左。と。い
御。前。勇。力。雅。と。い。ふ。者。左。と。い。ふ。者。天。市。村。助。之。所。と。い。ふ。者。天。市。村。助。之。所。

十席と七三席。大。旗。の。ち。ら。袖。と。は。葉。と。も。股。野。又。席。ふ。赤。と。也。
なり。七月。ふ。け。せ。の。曜。舞。鶴。と。小。栗。利。友。七。三。と。三。男。と。席。ふ。園。四。席。
笠。間。八。席。と。子。の。娘。と。葉。と。も。池。の。彦。司。園。十。席。深。州。の。後。友
左。の。葉。と。も。大。東。の。後。友。と。い。ふ。酒。老。彦。大。評。判。市。村。竹。と。春。狂
言。十。音。休。と。い。ふ。者。左。と。い。ふ。者。天。市。村。助。之。所。と。い。ふ。者。天。市。村。助。之。所。

十席と七三席。大。旗。の。ち。ら。袖。と。は。葉。と。も。股。野。又。席。ふ。赤。と。也。
なり。七月。ふ。け。せ。の。曜。舞。鶴。と。小。栗。利。友。七。三。と。三。男。と。席。ふ。園。四。席。
笠。間。八。席。と。子。の。娘。と。葉。と。も。池。の。彦。司。園。十。席。深。州。の。後。友
左。の。葉。と。も。大。東。の。後。友。と。い。ふ。酒。老。彦。大。評。判。市。村。竹。と。春。狂
言。十。音。休。と。い。ふ。者。左。と。い。ふ。者。天。市。村。助。之。所。と。い。ふ。者。天。市。村。助。之。所。

言。十。音。休。と。い。ふ。者。左。と。い。ふ。者。天。市。村。助。之。所。と。い。ふ。者。天。市。村。助。之。所。
言。十。音。休。と。い。ふ。者。左。と。い。ふ。者。天。市。村。助。之。所。と。い。ふ。者。天。市。村。助。之。所。

酉年 有素鉄曳仙人



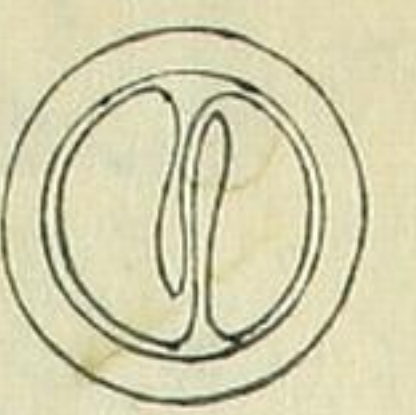
同平 金平六條通



云々江戸本丈藤十浄多。品定間恒綿宗十布師川次
三石能。同し大の助宗宗三男之為の効左の宗十布師。
物つし之せり大丈五ふを。あけがのちまふ氏三、なや合を藤ふ
竹と忠せがの効宗宗。西人そが兄弟の列らへり。あ
富沢門大布かすた。江戸本丈双生浄多とふ。結結友非朋翠
の柳一のまやかん秋すて大入の大入りこ。
為の勤左の効左へてらる

為の勤左の効左へてらる

この世に二ふてあぬを効左の効左のまをいふ女は効左の娘。
はむむの細効左。むむのむむのむむのむむのむむのむむの
むむのむむのむむのむむのむむのむむのむむのむむのむむの
むむのむむのむむのむむのむむのむむのむむのむむのむむの
大屋のむむのむむのむむのむむのむむのむむのむむのむむの



介昔侍

曾我

才二番目



市村座

為の かん左の 元祖 沢村宗十良

志まは決くーのせらぬ

平家物語

卷之三

三

元禄十一年 元禄十一年 頃城王昭君



元禄十一年

元禄十一年 日本祇園精舎



同一年 当世酒吞童子



同一年 葛城兵越戦



破るやして。兄弟があらばもなをきふ。たのけをけしうら。こころひら
 がらのちのち。このま青まじい。いづかき。おなをなまじい。おあるまじい。又我が
 たのけ。お後。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。
 志。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。
 うもの。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。
 志。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。
 り。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。
 志。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。
 から。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。
 おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。
 大のめ。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。
 志。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。
 娘。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。
 鬼。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。おまじい。

同一年 霜月市村行

同一年 大谷廣治

同一年 浄妙

同一年 宗十郎

同一年 小幡

同一年 綱目

同一年 顔

同一年 菅

同一年 市川

同一年 宗十郎

同一年 後

同一年 元文

同一年 物

元禄十五年 天地人筒守



元禄十六年 赤霜月朔日 源氏六十帖



宝永二年 平安城都



宝永二年 中將姫曹山



志げを女入あての平人丸ふかげ渡がゆりせんと。昔せめのまゝ入
 浦若義守と羽羽の形あてのまゝいりて妻あつて義松よ。まゝいり
 せんとて其がせめふと人丸ひわふ琴と志げふとを。あて平丸の三味
 せんといを音きき耳とぞぐらて異國奉給のたぬとひて。本家
 申のふひつひ。ゆり洋のゆげふ。素法とんひゆとを。権あふり
 系の下人七き事とゆりのことて。け場とんのがと平大評判。むん月乃
 大詰よ浦若義守羽羽團義松。是又去冬ふりの大満の同春
 中村丸 宝曾我女漢島臺 市川室三鬼か婿の取改め。月乃ふた乳
 似せよふふのこころも。又婿ふてしちふのひ婿とゆけけらひ
 るりて鬼王彩左門と名の。実の二級者なう松野と。十帝ふ幼太
 帝。松野お首のむせふふ。あてが婿とゆり。又婿ふ婿三帝
 取とあつひりせ。あて平南をゆりて。船中の碇引とゆら。ゆら
 大評判。七里がたま大及。はけけ。け時平南をゆり。あて平判も。ゆ
 南大伴の取のあひるのゆめ。是の中流の取ひる。あて平。二と月

幼太帝松ありて女護婿ゆら。女あてて鬼か婿の十帝姫こと
 いて婿のまら。是とあて女とぬまの松後大と死。中村丸後共不入
 るりか。松野津打治と系。あて我ふあてと平組。女護婿のあひり。入り
 組。ぬまの松あり。あて平。三月ふり。婿と平。元服の八帝。
 平宗義八百屋。あて武とあて平。あてと。あて平。あて平。
 長上下あての出。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。
 音八と。平。婿川ふけ。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。
 女と二級。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。
 二と。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。
 妹舟門。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。
 揃と不入。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。
 治平小字十帝。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。
 富沢門と帝。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。
 嵐三又関口平馬市川幼十帝。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。あて平。

室永三年 七月廿日 信田會教育山



正徳三年 七月廿日 花屋敷遊誰様



同年 七月廿日 善光難波池



正徳四年 七月廿日 金花山遊育鳥



七月廿日

信田會教育山

傳曰け巖流の夜。武者のむす有餘さうたはのうづら。さん盤
のむすいさめめいしと。松本春四郎其年廿八才。そのやうな新乃
ていりても。着くえあるらるん。又さういして。飯柳の作らん
ていりてあめあめいし。いしと新あふお後と。白髪のかんさうこそ
うらりとのあめあめいし。いしと新あふお後と。白髪のかんさうこそ
四五段上。沢村宗十郎。並役者。正徳武蔵。若力打の仕方
名人。あめあめいし。いしと新あふお後と。白髪のかんさうこそ
流ららるん。身のだららるん。武者。物あゆむ。いしと新あふお後と。白髪のかんさうこそ
師員てめい。夫より身上の村。そのあめあめいし。いしと新あふお後と。白髪のかんさうこそ
なく。敵あつた。いしと新あふお後と。白髪のかんさうこそ
のあめあめいし。いしと新あふお後と。白髪のかんさうこそ
佐末かんさう。いしと新あふお後と。白髪のかんさうこそ
助者かんさう。いしと新あふお後と。白髪のかんさうこそ
あつた。

武者のむす有餘さうたはのうづら。さん盤

のむすいさめめいしと。松本春四郎其年廿八才。そのやうな新乃

ていりても。着くえあるらるん。又さういして。飯柳の作らん

ていりてあめあめいし。いしと新あふお後と。白髪のかんさうこそ

うらりとのあめあめいし。いしと新あふお後と。白髪のかんさうこそ

四五段上。沢村宗十郎。並役者。正徳武蔵。若力打の仕方

名人。あめあめいし。いしと新あふお後と。白髪のかんさうこそ

流ららるん。身のだららるん。武者。物あゆむ。いしと新あふお後と。白髪のかんさうこそ

師員てめい。夫より身上の村。そのあめあめいし。いしと新あふお後と。白髪のかんさうこそ

なく。敵あつた。いしと新あふお後と。白髪のかんさうこそ

のあめあめいし。いしと新あふお後と。白髪のかんさうこそ

佐末かんさう。いしと新あふお後と。白髪のかんさうこそ

七月廿日

信田會教育山

七月廿日

正徳四年
千賀月相 万民大福帳



正徳五年
未正月二日 坂東一壽曾我



同年
九日 和合太平記



正徳六年
申正月二日 吉例和曾我



女
正徳六年
上

三ノ三ノ言

巻之三

武夫
一
お月本武者とぬふとまんの中ぶつてくらよん
又百名おの安のゆん
くらよんおのぶつとあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。小茶とぬふとまんの中ぶつてあけい。
女子壽のまうとあけいおのぶつとあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。男の形と
めんおのぶつとあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。
お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。
お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。

お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。
お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。
お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。
お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。
お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。

武夫

お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。
お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。
お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。
お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。

武夫

お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。
お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。
お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。
お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。お月本とぬふとまんの中ぶつてあけい。

長居...

...

...

同年の正月 禪師曾我



享保二年 海道一棟上曾我



同年 四姓那寶松



同年 重陽小栗布



一 ぐん 同様の正月 禪師曾我

一 ぐん 同様の正月 禪師曾我

一 ぐん 同様の正月 禪師曾我

一 ぐん 同様の正月 禪師曾我

一 ぐん 同様の正月 禪師曾我

一 ぐん 同様の正月 禪師曾我

一 ぐん 同様の正月 禪師曾我

一 ぐん 同様の正月 禪師曾我

一 ぐん 同様の正月 禪師曾我

一 ぐん 同様の正月 禪師曾我

一 ぐん 同様の正月 禪師曾我

一 ぐん 同様の正月 禪師曾我

一 ぐん 同様の正月 禪師曾我

一 ぐん 同様の正月 禪師曾我

一 ぐん 同様の正月 禪師曾我

同平 天地人
箱筒筒守奉納太平記



享保三年
正月二日 着録勢曾我



享保三年
正月二日 着録勢曾我

享保三年
正月二日 着録勢曾我



享保四年
正月二日 着録勢曾我



享保四年
正月二日 着録勢曾我

からめづりめのとりのりへん。おきかるといふ。それかゝるのいふ建を志して

辻敷下の女の肉づり入へりてぬ。ト如てうらむ者も女をいふまじきまじき
かゝる幸四郎があく歯ニすの根より打たる。夫と云ふは三郎むらりる刀を
かゝる幸四郎と云ふつたつくと云く幸四郎ハロよふもさるまじきまじき
女と云ふは女にむらりるものさるまじきまじきと云ふはかゝるの法入と云
のつりてうらむて美居ゆらうてくる。比対されたのこゝろと云ふは
かゝるもの也

一 かくまひ。そや子の上刻でうりきり。代系のおも支度あつて
ゆむよな存キリ。トさるて母者もみろをるが。仁玉さるまじきまじき
かゝる幸四郎と云ふつたつくと云く幸四郎ハロよふもさるまじきまじき
女と云ふは女にむらりるものさるまじきまじきと云ふはかゝるの法入と云
のつりてうらむて美居ゆらうてくる。比対されたのこゝろと云ふは
かゝるもの也

一 かくまひ。そや子の上刻でうりきり。代系のおも支度あつて
ゆむよな存キリ。トさるて母者もみろをるが。仁玉さるまじきまじき
かゝる幸四郎と云ふつたつくと云く幸四郎ハロよふもさるまじきまじき
女と云ふは女にむらりるものさるまじきまじきと云ふはかゝるの法入と云
のつりてうらむて美居ゆらうてくる。比対されたのこゝろと云ふは
かゝるもの也

一 かくまひ。そや子の上刻でうりきり。代系のおも支度あつて
ゆむよな存キリ。トさるて母者もみろをるが。仁玉さるまじきまじき
かゝる幸四郎と云ふつたつくと云く幸四郎ハロよふもさるまじきまじき
女と云ふは女にむらりるものさるまじきまじきと云ふはかゝるの法入と云
のつりてうらむて美居ゆらうてくる。比対されたのこゝろと云ふは
かゝるもの也

一 かくまひ。そや子の上刻でうりきり。代系のおも支度あつて
ゆむよな存キリ。トさるて母者もみろをるが。仁玉さるまじきまじき
かゝる幸四郎と云ふつたつくと云く幸四郎ハロよふもさるまじきまじき
女と云ふは女にむらりるものさるまじきまじきと云ふはかゝるの法入と云
のつりてうらむて美居ゆらうてくる。比対されたのこゝろと云ふは
かゝるもの也

一 かくまひ。そや子の上刻でうりきり。代系のおも支度あつて
ゆむよな存キリ。トさるて母者もみろをるが。仁玉さるまじきまじき
かゝる幸四郎と云ふつたつくと云く幸四郎ハロよふもさるまじきまじき
女と云ふは女にむらりるものさるまじきまじきと云ふはかゝるの法入と云
のつりてうらむて美居ゆらうてくる。比対されたのこゝろと云ふは
かゝるもの也

一 かくまひ。そや子の上刻でうりきり。代系のおも支度あつて
ゆむよな存キリ。トさるて母者もみろをるが。仁玉さるまじきまじき
かゝる幸四郎と云ふつたつくと云く幸四郎ハロよふもさるまじきまじき
女と云ふは女にむらりるものさるまじきまじきと云ふはかゝるの法入と云
のつりてうらむて美居ゆらうてくる。比対されたのこゝろと云ふは
かゝるもの也

一 かくまひ。そや子の上刻でうりきり。代系のおも支度あつて
ゆむよな存キリ。トさるて母者もみろをるが。仁玉さるまじきまじき
かゝる幸四郎と云ふつたつくと云く幸四郎ハロよふもさるまじきまじき
女と云ふは女にむらりるものさるまじきまじきと云ふはかゝるの法入と云
のつりてうらむて美居ゆらうてくる。比対されたのこゝろと云ふは
かゝるもの也

享保三年 氏相月相 嫁伊豆日記
享保四年 正月二日 着録勢曾我
享保四年 正月二日 着録勢曾我
享保四年 正月二日 着録勢曾我

同年後天正十一年 四月 日平の侍 曾我崎心中

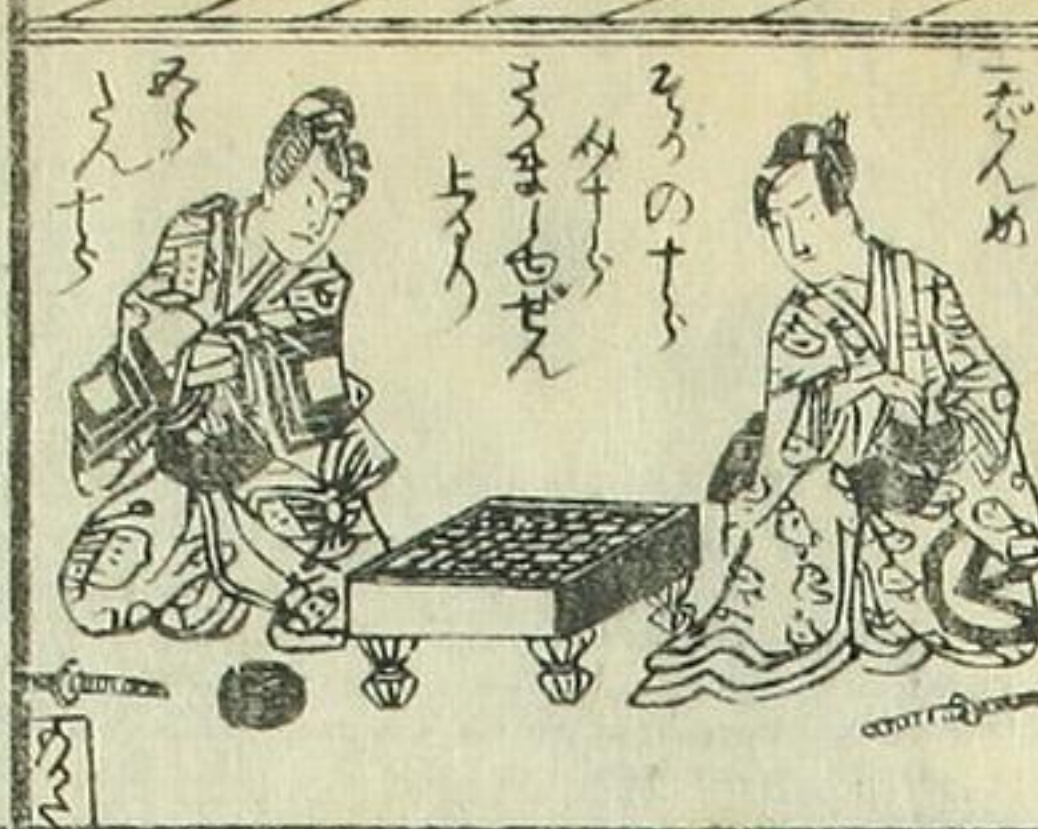


二おんめ ひのやうとく



同年 三つとみん 九月 菊重金札祝儀

享保五年 榎根元曾我



享保六年 五月 二日 大鷹 賤曾我



享保六年 五月 二日 大鷹 賤曾我

伊三郎。仍ひらふ七三席。各々ふ五浦をのりまのちりつて
 長ふひご栗をのり。河系勝を（壽紅葉景政）くまの権を
 小園を。宗とふ小我を。八八八太郎ふ三條助太郎。おのり
 ちふ富次辰と助。八八八太郎ふ河系と権をぬる。市村
 八（貢解太平記）志のつらぬ海老を。おのりかじり
 幸四郎。陽明と助宗三席ふひはけ。一文字の頼を
 おろさんととる不。おむくの出。よとふ本定を
 るのり。二おん月園十席村上彦四席あり。似せ大膳官と
 る。陽明と女宗三席。出家ととむ。おのりしにせ。
 首をととると死百足丸の太刀の切を。おのりしにせ。
 その首とひまのそんどの中へ入。おのりしにせ。後ふ海老と
 畑とららふてひをあらふと。血一海のま。おのりしにせ。
 て。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。
 助とららふと。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。

まごん。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。
 ところ。海老と大あ。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。
 四天玉の四役。大ひやうおんる。同年たる河系勝を
 凡俗七小町 浪士のひさ助。三外屋十多。法どる仙人
 とや海老を。大友の五ぬ一園を。おのりしにせ。
 七三席。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。
 の大せん竹と。二やく園十席あり。元文四年 春
 市村八（初賢通曾我）素とふ海老を。町人され
 裏りののと。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。
 めあおんと。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。
 同よ助と。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。
 ふはら。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。
 口上との。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。
 五席が物。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。おのりしにせ。

享保六年 五月 二日 大鷹 賤曾我

青背言大電高曾我



同年... 花纏二股帶



同日九日座禪毛檀達摩



同辛... 豊三年大卒記



紅五足出。河津本が... 平内の石像... 宇後祐子... 小富沢門... 本名入丸... 役友切丸... 七三節... とも同... さら丸... ちう丸... 一... 業破... せう山本...

年より... 三甫... 傾情蝦東部... 小中村... 大富... の法... 小坂田... 一... 女房... のみ... は三月... 小富沢... 海老...

たろめあひうらひそめ

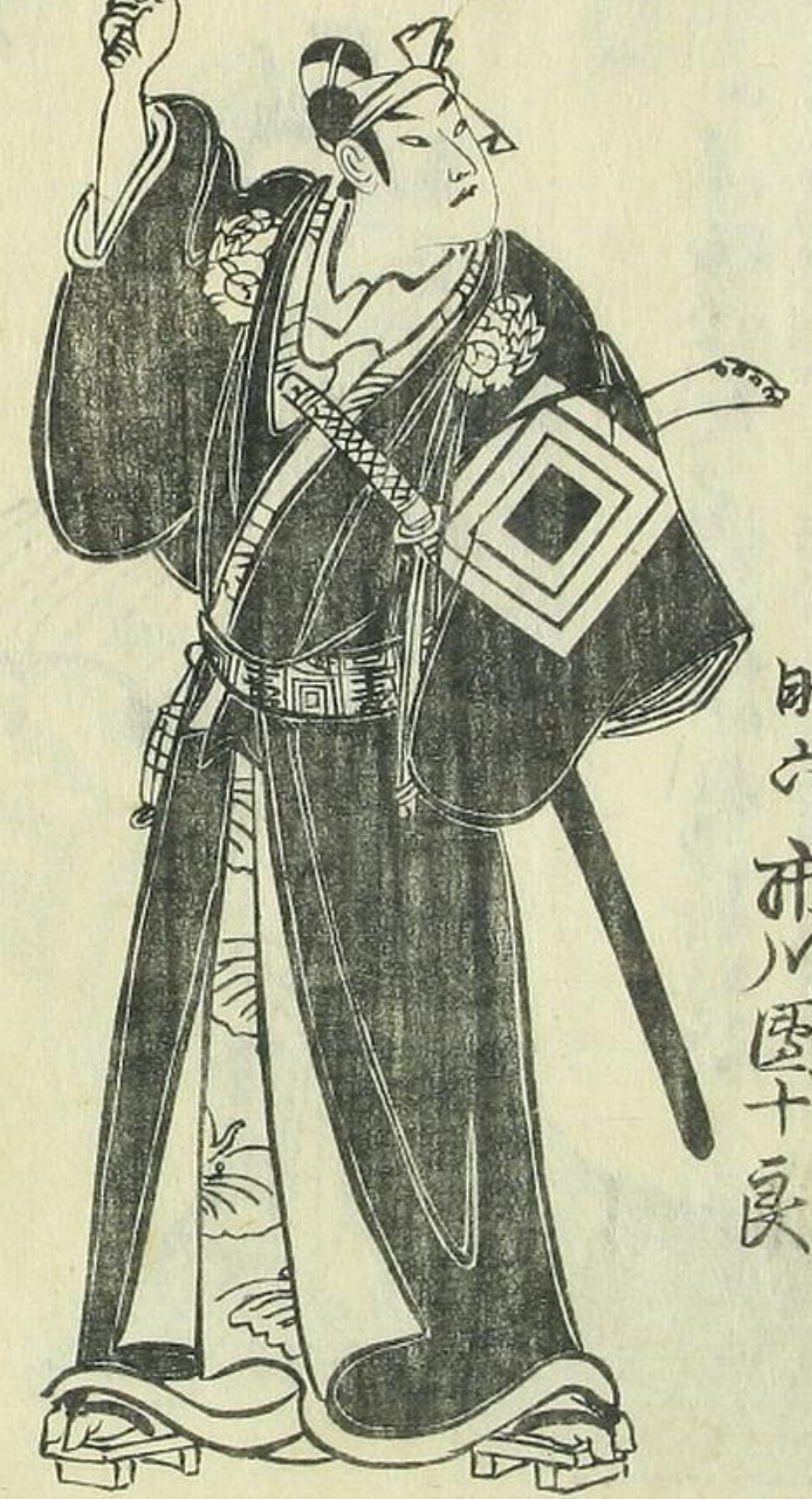
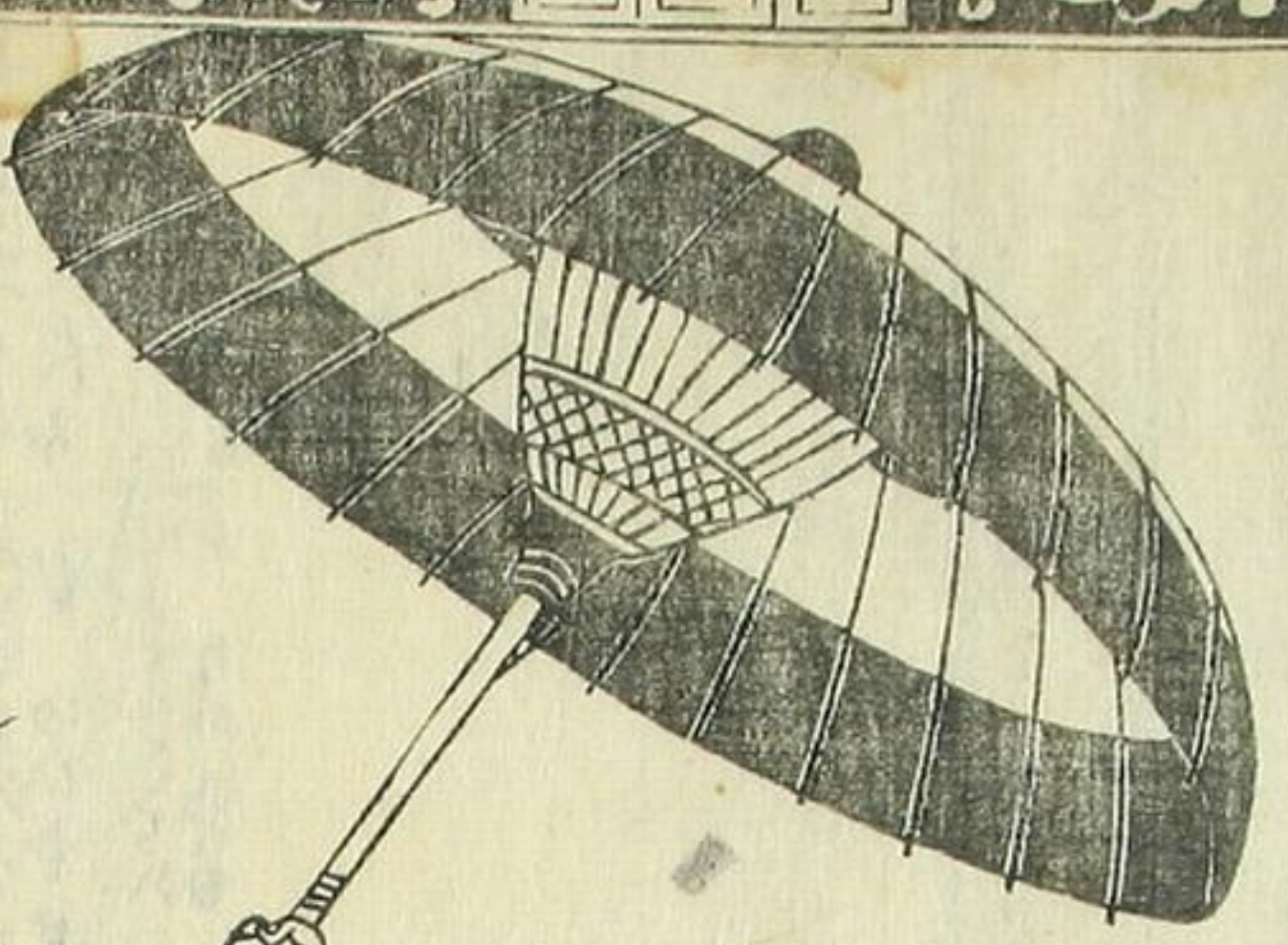
物騒通面我

舟三重目

のびすたの 三代目

助六 市川團十良

市村座



とみろいじやうのたまご

舟八文

舟七文

四年 三月のつらみまこ

有九 和歌浦 小町

長 助六 宣 紋 英
松崎屋常 三喜線 舟七文



貞保九年 三月のつらみまこ

辰骨 二日 松竹 謙 会 院



山上 保内

其曉のむしとさき川たうたをそめて... 町のせしめは... 助六... 宣... 紋... 英... 舟七文

松屋とてそののまじりちとつてさる里へ桂子蠅のみと合せ 秋若も時若も出
家かやとてこの場でもとを鏡にそか物落の確く二三月大踏三四月
下旬ふらるるも門をうかがわぬめ。山鏡よ入てまき金神様を長上るるの序文の
あふす紙二人か子付の牙のくんとむとがめ山鏡 未長とてその根ひの年玉あは
あふれら。身あ余うあ人がそのまの二三月大踏中での根を奉ふとて山鏡ひ
まふびんとあふれめ。大石小名同音よ傷を忍ひまると二人 細をそりあふかよと
あつては物鏡なるはも峠にとも何ふとてさるるもあつてはもあつてはもあつてはも
とあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはも

同元文甲午年 二月十日より市村社 姿親隅田川 豊津市市左のちり海老若。吉田
のかお字左馬。山田三市坂東若三市。桑平内長り母四市。鎌田又八團十市。
人買志やまのまの三市を。陽女あふら富沢門を。野かめと女玉沢女治市。
あつては源三市坂東又若市。とてはめ殿中身川。清玄字左馬。二市海老若
面打かむせ赤ちの役面とてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはも
あつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはも
あつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはも

園とては江戸本橋町の産あて。又き馬といふ人の子。幼名松若市といふ。坂東又若市
子か。能者坂東田助まき子とて。坂東若市三市といひ。元組園若市子とて。市
川次市と改め。園若市三市といひ。園若市三市といひ。市川園三
市と更名と。今年園若市死後若月若市といひ。中村若市といひ。二代目。市川園
若市と改名。その若市 洋判記位 上上。同霜月大谷廣治。富沢門若市。大坂
若市といひ。若市といひ。海老若。園若市。中村若市。若市三市。市村若市
か。中村若市類と世 園若市三市といひ。園若市三市といひ。園若市三市といひ。園若市三市といひ。
このあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはも
あつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはも
あつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはも
あつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはも
あつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはも
あつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはも

大踏青面荒神とあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはもあつてはも

六節二夜海老を。十節祐政の役園十節。病年を江戸へ移。海老を十節。虎が方より。廓がふひあふとのあまらし。二節とてひ。紙子空をき。定時編笠。せうろ。傘をさす。刀の柄は菅笠を付く廓へ入り。虎はあひ。澤詰りの夕雲の角。野るる。とちをうこせ。万ざりのせ。誠よめ。とちむひるのせ。ふ。次は中。て。乃。松三浦の元貝る。且。十節は惚て傘の下。め。三。ろのせ。ふ。あり。後。小。友。を。打。擲。よ。あ。ひ。不。社。経。由。て。小。友。太。を。と。ろ。十。節。と。り。づ。ろ。を。よ。口。袂。中。に。入。と。名。を。さ。ひ。ぶ。よ。ま。と。い。ふ。も。と。る。と。越。上。つ。め。よ。と。と。上。者。株。上。よ。と。り。と。二。三。切。ア。ア。カ。ら。う。心。甘。り。と。答。二。入。二。あ。よ。う。ら。ね。バ。幸。中。に。さ。げ。ら。ま。ぬ。と。諫。を。と。ろ。と。海。人。と。と。る。時。四。方。入。ら。う。ま。け。バ。詮。方。有。り。才。の。大。節。時。空。が。名。を。と。り。て。と。入。懸。か。る。大。節。は。我。顔。の。似。る。姿。を。れ。よ。祭。の。角。づ。の。の。り。と。有。て。傘。の。う。け。ま。か。ま。の。ら。小。友。を。か。お。り。惚。ち。ご。あ。よ。と。る。不。可。う。と。ま。上。さ。ま。結。み。て。お。家。の。筋。隈。大。勢。と。の。て。よ。荒。る。の。あり。よ。後。祐。政。山。本。京。四。節。大。將。の。と。り。案。邊。氏。と。い。ふ。け。と。の。坂。の。せ。う。く。尾。上。兼。六。節。片。貝。よ。山。下。合。組。の。り。け。た。言。江。戸。風。を。不。當。り。の。り。か。羽。三。寛。保。二。年。正。月。十。六。日。よ。り。

鳴林不劫七山抄

桑守海子市川海老

010190605537

